

# 野球に置けるベンチからの声掛けの重要性 一心に残った言葉と使用頻度の相関関係

情報科学ゼミナール 1215132 西成田 悟

## 1. 研究動機・研究目的

野球という競技ではしばしば選手同士で声を掛け合う。しかし、選手による声掛けによって選手のやる気に影響があるのかということ、その言葉がどれだけ心に残り、試合中に使用しているのかについて検討されていないのが現状である。そこで本研究では、選手同士の声掛けはその選手に対し、どれだけ心に残るのかを検証し、さらには、心に残った言葉がどれだけの頻度で他者に対して使用するのかということ因子分析を用いて検討し、野球現場においてベンチメンバーの人的リソースの一つである声掛けの重要性を認識することを目的とする。

## 2. 研究方法

本研究では、大学の体育会野球部に所属する選手 100 名にアンケート調査の依頼を行った。そのうち 84 名が回答した。回収率は 84 パーセントであった。対象者は野球歴 8～16 年、ピッチャー 20 人、キャッチャー 9 人、ファースト 6 人、セカンド 7 人、サード 8 人、ショート 6 人、外野手 28 人であり、すべての対象者は次の適格基準を満たす：①大学生であること、その大学の硬式野球部に所属すること、②2018 年 4 月から 2018 年 10 月までに公式戦、練習試合問わず試合のベンチメンバーに入ったものであること、③試合の記憶が鮮明な現役選手であること。名の回答者に承諾を得て質問紙によるアンケート調査を行った。

アンケートの結果に基づき、「使用頻度」「心に残った度合い」のそれぞれにおいて因子分析を行い、できた因子に対して命名を行った。因子分析における因子の抽出方法は最尤法を採用し、回転法はバリマックスとした。因子分析によってできた心に残った因子と言葉の使用頻度との相関係数の検定を行った。本研究の分析はすべてフリーソフトの「EZR」を用いて行った。

## 3. 主な結果と考察

野球の試合においてベンチメンバーの声掛けというものがある。声掛けは試合そのものの雰囲気盛り上げ、チームとしてのモチベーションを高める。選手個人にとってはそ

の一言によって次のプレーが変わるきっかけとなりうる存在である。しかしながら本当に選手にかけた声が選手の心に届いているのか。どういった言葉をかければその選手にとってプラスになるのかということは不明確なままであった。しかし本研究によって、自分がベンチで使っている言葉と心に残っている言葉に強い相関関係があることが明らかになった。

#### 4. 結論

ベンチからの声掛けは本研究により重要であるといえ、プレーしている人間がかけられた声とベンチからプレーしている選手に対する言葉の使用頻度の相関はとても高いということが明らかになった。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆を終えて、野球の声掛けというものについて考えることができ、声掛けの使用頻度とかけている言葉の相関関係は高いということが明らかになった。私自身も小学1年から大学4年まで野球を続けてきたが、常々ベンチから声を出せと言われて続けた。始めたころは、ただ声を出しているだけだったが、学年が上がるごとにどんな声を出せばいいか考えるようになり、大学に入ってからにはベンチにいる機会が増えたためそれが如実になった。今回はかけられた声が印象に残った場合という観点で研究を進めたがその声が本人にとってプラスの印象か、マイナスの印象かというところまでは明らかにすることができなかった。今後はどんな声掛けが選手にとって役に立つのかということが明らかになればいいと考えている。